

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

指宿市

3 地域再生計画の区域

指宿市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本市は、薩摩半島の最南端、鹿児島湾内に位置し、年間平均気温は暖流の影響で約 19 度と高く、年間を通じて温暖な気候となっている。また、豊かな自然と温泉に恵まれ、国内はもとより海外からも多くの観光客が訪れる、日本有数の温泉観光地として、48 軒の宿泊施設を有している。

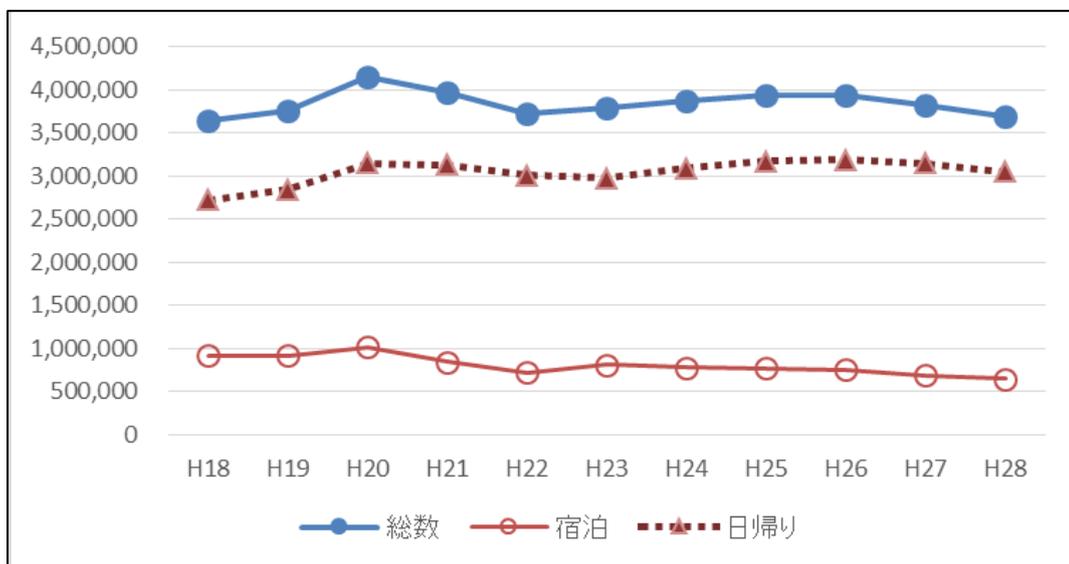
観光面の現状としては、大河ドラマ篤姫放映による効果のあった平成 20 年における、観光客入込客数 4,156,665 人、宿泊客数 1,009,624 人をピークに、それ以降、観光客入込客数、宿泊客数ともに減少傾向にあり、平成 28 年は、観光客入込客数 3,693,317 人、宿泊客数 644,818 人となっている。

一方、温暖な気候であることからスポーツ合宿や各種大会の開催地としての人気は高く、市内にある民間企業のサッカー場には、Jリーグが発足して以来、毎年、プロチームがキャンプに訪れている。2002 年のワールドカップ日韓大会の際には、フランス代表チームがキャンプに訪れたほか、日本男子 A 代表チームは延べ 5 回も合宿を行うなど、サッカー合宿のまちとして「指宿」の名が全国に知られるようになった。また、2014 年のブラジル W 杯に伴う日本男子 A 代表チームの合宿の際には、その様子が延べ 46 回も新聞に掲載され、多くのサポーターが見学に訪れるなど、サッカーがもたらす地域活性化への期待が高まった。

平成 27 年度においては、県内外からプロ、アマを含め、11 チームがサッカーの合宿で本市を訪れ、延べ 3,399 人の利用があった。また、平成 28 年 8 月 16 日から 8 月 20 日までの 4 日間、「カレッジサッカーサマーキャンプ・イン・指宿」が開催され、県内外の高校 7 校、大学 4 校等が参加し、延べ 1,000 人を超える選手、関係者の利用があるなど、スポーツ大会・合宿の

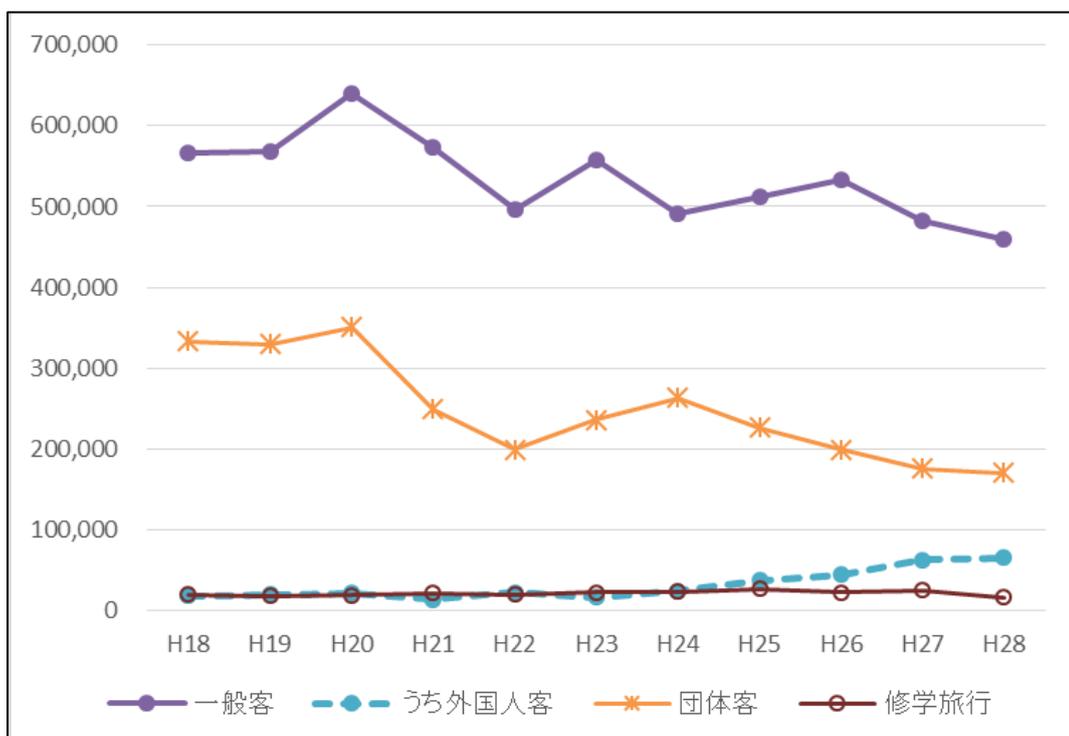
受入は、観光入込客数を確保していくうえで、重要な位置づけの1つとなっている。

【図表1】指宿市の観光客入込数の推移



※出典：「指宿市の観光統計」過去録一覧

【図表2】指宿市の宿泊客内訳の推移



※出典：「指宿市の観光統計」過去録一覧

【図表 3】平成 27 年度 市内グラウンド、体育館でのサッカー利用状況

施設名	利用件数	利用者数
指宿市陸上競技場	101	5,235
ヘルシーランド	73	2,903
サンシティホール	348	5,570
大成運動場	99	2,158
B & G 体育館（フットサル）	170	1,793
開聞総合グラウンド	9	1,692
開聞運動場（旧開聞中跡）	89	1,595
合 計	889	20,946

※出典：「指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業基本構想（平成 28 年 12 月策定）」

【図表 4】平成 27 年度 本市でのサッカー合宿状況

	チーム名	地域	期間	人数	延人数	会場
1	ロアッソ熊本ユース	熊本市	H27. 8. 11～8. 14	28	112	市陸上競技場
2	インセブルFC	宮崎市	H27. 8. 22～8. 23	24	48	市陸上競技場
3	れいめい高校サッカー部	薩摩川内市	H27. 10. 31～11. 1	50	100	市陸上競技場
4	鹿児島ユナイテッドFC	鹿児島市	H28. 1. 25～2. 2	37	259	市陸上競技場
5	ウルサン現代	韓国	H28. 2. 3～2. 16	46	598	市陸上競技場
6	都城 U-12・11 トレセン	都城市	H28. 2. 27～2. 28	150	300	市陸上競技場
7	鳳凰高校サッカー部	南さつま市	H28. 3. 5～3. 5	30	30	市陸上競技場
8	柏レイソル	柏市	H28. 1. 23～2. 6	54	756	民間
9	浦和レッズ	さいたま市	H28. 1. 31～2. 18	52	936	民間
10	岡山湯郷ベル	美作市	H28. 2. 6～2. 11	28	140	民間
11	日本女子 U-20 代表候補	東京都	H28. 3. 26～3. 30	30	120	民間
延べ利用者総数					3,399	

※出典：「指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業基本構想（平成 28 年 12 月策定）」

4-2 地域の課題

本市は、温暖な気候や宿泊・温泉施設が充実していることに加え、近年、日本男子 A 代表のサッカーキャンプ地として知られるようになったこともあり、サッカー合宿や練習試合の需要はあるものの、グラウンドそのものが不足しているため、そうした優位性を十分に生かしていない現状にある。

具体的には、市内の民間企業1社は、サッカー専用グラウンドを所有しているため、Jリーグ発足以来、J1チームの受け入れをしているが、市営のサッカー専用グラウンドはないため、やむなく、市営陸上競技場のフィールドを練習場として開放し、合宿を受け入れている。そのため、サッカーはもちろん、他の競技との利用調整も発生し、全ての合宿申出に答えることが出来ていない状況にある。

また、一般社団法人鹿児島県サッカー協会によれば、平成27年度時点で、614チーム、約16,000人の選手が県サッカー協会に登録されているが、県内で大会が可能なグラウンドは38か所程度であり、登録チーム数、選手の数から見ると、16チーム、421人の選手で1か所のグラウンドを利用している状況にある。一般社団法人鹿児島県サッカー協会によれば、鹿児島県全体を見ても、多くのサッカー関係者が、大会会場や練習場の確保に苦慮しているとのことである。そのような状況もあり、鹿児島県サッカー協会や指宿市サッカー協会、サッカー関係者、指宿市観光協会、指宿商工会議所、菜の花商工会、指宿市建設業組合など各種団体等から、サッカーグラウンド整備について要望書や陳情書が提出されるとともに、7,900人を超える市民の署名簿も市議会に提出されるなど、サッカーグラウンド新設を要望する声も多く上がっている。

本市では、サッカーグラウンドを整備すれば、市外からの大会・合宿の需要が十分に見込める状況にありながら、市内のグラウンドが不足しているために、大会・合宿の受け入れと、それに伴う観光入込客を獲得できる機会を逃してしまっていることから、新たなグラウンドを整備して受入環境を整える必要がある。

4-3 目標

現状と課題を踏まえ、本市の温暖な気候や宿泊・温泉施設に恵まれた環境面での利点と、サッカー合宿のまちとしての知名度を生かし、新たにサッカー・多目的グラウンドを整備するとともに、スポーツ合宿・大会等の誘致を積極的に行い、スポーツ大会・合宿による受入を促進することで、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげていくことを目標とする。

【数値目標】

事業	指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業	年月
KPI	指宿市サッカー・多目的グラウンドにおける合宿・大会の受入人数	

申請時	—	H30.1
初年度	—	H31.3
2年目	—	H32.3
3年目	0.6万人	H33.3
4年目	2.3万人	H34.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本市の温暖な気候や宿泊・温泉施設に恵まれた環境面での利点と、サッカー合宿のまちとしての知名度を生かした、スポーツ大会やスポーツ合宿による市外からの誘客を促進するため、サッカー・多目的グラウンドを整備するとともに、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致・情報発信・ワンストップ窓口機能などを一体的に担う、官民による専門組織（スポーツコミッション）を設立し、スポーツを通じた交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市の温暖な気候や宿泊・温泉施設に恵まれた環境面での利点と、サッカー合宿のまちとしての知名度を生かし、新たにサッカー・多目的グラウンドを整備するとともに、スポーツ合宿・大会等の誘致を積極的に行い、スポーツ大会・合宿による受入を促進することで、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげていくことを目的とする。

(事業の内容)

既存グラウンドに加え、今回新たにサッカー・多目的グラウンドを整備することで、アマチュアの九州大会や全国大会の誘致・開催に加え、Jリーグや男女各カテゴリー（年代別）の日本代表の合宿受入も可能にする。本

市としては、これらのサッカーを中心に大会誘致や合宿誘致を促進することで、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

→各年度の事業の内容

指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業

初年度) 用地購入・造成工事に着手

グラウンド工事に着手 (サッカー場・多目的グラウンド)

2年目) グラウンド工事 (サッカー場・多目的グラウンド)

建築工事に着手 (スタンド、クラブハウス、トイレ)

外構工事に着手 (園路, 駐車場など)

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市の「指宿市版まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、基本目標の1つに「地方への新しいひとの流れをつくる」を掲げ、その中で、具体的な施策の1つとして、「スポーツ大会・合宿等の誘致促進」を掲げている。サッカー・多目的グラウンド整備事業は、「スポーツ大会・合宿等の誘致促進」を推進するための具体的な事業の1つである。

また、総合戦略の基本目標「地方への新しいひとの流れをつくる」の数値目標に「2019年(平成31年)入込観光客数 対2014年(平成26年)比6%増(H26:3,938,089人→H31:4,174,374人)」を掲げており、本事業は、合宿・大会の受入人数増加を通して、この目標達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標 (重要業績評価指標 (KPI))

事業	指宿市サッカー・多目的グラウンド整備事業	年月
KPI	指宿市サッカー・多目的グラウンドにおける合宿・大会の受入人数	
申請時	—	H30.1
初年度	—	H31.3
2年目	—	H32.3

※サッカー・多目的グラウンドは、平成32年度中に供用開始予定。供用開始初年度となる平成32年度は0.6万人、平成33年度は2.3万人の受入を目指している。

(6) 事業費

(単位：千円)

区分	年度	H30	H31	計
	事業費計	964,269	703,519	1,667,788
	公有財産購入費	715,000	—	715,000
	工事請負費	248,420	686,770	935,190
	委託料	—	16,000	16,000
	備品購入費	100	—	100
	旅費	649	649	1,298
	需用費	100	100	200

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	計
ペンデル税理士法人	1,000	1,000
株式会社 イノス	100	100
計	1,100	1,100

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

毎年度、総合戦略の効果検証に関する外部評価機関である、指宿市総合振興計画審議会（学識経験者、観光・商工関係団体、市、金融関係団体、ハローワーク指宿、自治公民館連絡協議会等の代表者）において、効果検証を行う。

(評価の時期・内容)

毎年度、3月末時点でのKPIの達成状況を取りまとめ、9月を目途に、指宿市総合振興計画審議会（戦略効果検証外部機関）において、効果検証を行い、必要に応じて改善を図る。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに指宿市公式ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間

平成 30 年 4 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) サッカー・多目的グラウンド整備事業（市独自）

事業概要：着工中のグラウンド工事（サッカー場・多目的グラウンド）、建築工事（スタンド、クラブハウス、トイレ）及び外構工事（園路、駐車場など）を引き続き進め、平成 32 年度中の供用開始を目指す。

実施主体：指宿市

事業期間：平成 32 年度

(2) スポーツコミッション設立・運営事業

事業概要：スポーツ大会やスポーツ合宿による市外からの誘客を促進するため、誘致・情報発信・ワンストップ窓口機能などを一体的に担う、官民（行政・体育協会・観光協会・商工会議所・商工会など）による専門組織（スポーツコミッション）を設立し、スポーツを通じた交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

実施主体：指宿市

（設立に向けた準備と当面のスポーツコミッション事務局）

事業期間：平成 30 年度～平成 33 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

毎年度、総合戦略の効果検証に関する外部評価機関である、指宿市総合振興計画審議会（学識経験者、観光・商工関係団体、市、金融関係団体、ハローワーク指宿、自治公民館連絡協議会等の代表者）において、効果検証を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度、3月末時点でのKPIの達成状況を取りまとめ、9月を目途に、指宿市総合振興計画審議会（戦略効果検証外部機関）において、効果検証を行い、必要に応じて改善を図る。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに指宿市公式ホームページ上で公表する。